

<民宿 野彩>

Dさん： 「野彩」の体験メニューとしては、私は野鳥が大好きなので、来ていただいたお客様に野鳥のガイドをしたり、バードウォッチングをして楽しんでもらったりしています。

また、近くには、久保谷森林セラピーロードがあるので、せせらぎや風のささやきを感じながら、自然の中でゆっくりと過ごしたい方や都会の生活でストレスを感じている方に来ていただき、歩きながら心を癒してもらっております。

「野彩」は、開業してまだ1年4ヶ月です。開業のきっかけは4年前に久保谷森林セラピーロードが認定されたことや、四万十街道ひな祭のイベントを通じて、松原にたくさんのお客様が来ていただくようになり、「泊まってゆっくりしたいけど松原には宿がない」という声があり、たまたま私が小さいロッジをもっていたものですから、やってみようかなということから始めました。

何もわからない私が民宿を始めたものですから、初めは、料理、お客様への対応、体験メニューなども自己流でやり、お客さんが、「野鳥に会えてよかった」「セラピーロードは気持ちよかった」と言ってくれれば、あまりお金にはならないけど、自分が楽しいからいいか、くらいに考えておりました。

ある時、お声をかけていただいて経営の勉強に参加させていただき、その時、今までの自分が目的もなく、その場限りの粗末な経営だったと気付かされました。

経営していくうえでは、自分自身の目的を持つことが大事だと言われ、5年後の自分がどうなっているかを静止画像で見える目的をつくりなさい。そして、民宿、つまりセラピーロード、グリーンツーリズムは、その目的のための手段だと勉強しました。そこで、私は野鳥が大好きで、テレビでモンゴルの大草原をイヌワシが飛んでいるシーンを見て、「一度行ってみたい」と思い、それを自分の目的にしました。そのための費用を民宿「野彩」で作り出すことにしたのです。

さて、収入を得るためには、お客様をどうやって増やすのか。経営の勉強を続けるうち、私の民宿の他の宿ではマネのできない特徴や能力は、私は野鳥が大好きで、野鳥の知識があり、ガイドができることだと気が付き、野鳥に興味がある人をターゲットにしようと考えています。

現在、梶原町では、「梶原びとを元気にする補助金事業」というのがありますが、それをいただいて日本野鳥の会の広報誌の23年1月号に「野彩」の広告を載せました。それについては、東京の野鳥の会の本部に行き、直接担当者に会い、野鳥に対する考え方や広告の一流のデザイン、お客様への対応などを勉強させていただき、「野彩」の広告を東京から発信しました。

また、銀座、群馬県の旅館のご主人に会い、経営についてお話を聞かせていただきましたが、私が一番心に残った経営にとって大切なこととは、お二人ともそ

れぞれ自分の宿に対してしっかりとしたコンセプトを持っていて、決して軸をゆるがさない経営をするということです。そのコンセプトに合ったお客様であれば、道路が悪かろうが遠かろうが来てくれます。とはいえ、道路は良いに越したことはありません。松原までは非常に道が悪くて困っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

梶原や松原も、ここでしか出会えない魅力のあるものを見つけ出し、作り出し、提供すれば、遠くでも行ってみたいと思うお客様は来てくださると思います。そのために何が大切か。関わっている住民の1人1人が目的をもち、勉強し続けることが出来るか。そんな人になれるかどうか。それがこれからの私自身の問題であり、地域おこしの課題でもあると思います。

行政の力はもちろん必要ですが、イベントの手助けなどばかりでなく、地域には本当に素晴らしい能力を持った人はたくさんいるので、住民に考える力がつくにはどうすればいいのか、そうなるには何にお金をかけることが一番必要か、考えていただきたい。きちっとした経営の勉強をすることが本当の意味での地域おこしにつながるのではないかと補助金事業で思いました。

知事： 本当におっしゃるとおりですね。素晴らしいことだと思います。

経営の勉強をされる時に、どういうことを参考にされましたか。やはりネットワークの皆さん同士との交流なんかも役にたてられましたか。

Dさん： 1年くらい前からですけど、このグリーンツーリズムとはまた関係なく、松原の5名で勉強しようということで集まりました。私は何十年も主婦だったので、本当に経営なんか頭になかったんですが、一つ一つ教えていただき、勉強していくうちに、いかにフォーカスするかということもわかってまいりました。

知事： やはり人材育成関係といった事業をしっかり行政が前をきってやっていくようにすることは、大事なことですね。

Dさん： 初めは難しくして、何でこんな勉強をしないといけないかと思いましたが、やはり「知っている」でものごとを進めるか「知らない」で進めるかでは大きな違いがあります。いろんな会で会長がおっしゃることや、この座談会で知事がおっしゃることも、だんだん勉強していくとわかってくる。しないと、わからない人間で終わるところでした。勉強し続けるということを教えてくださったことは非常に大事だと思うし、矢野町長さんが後押ししてくださって、本当ありがたいと思っています。

矢野町長： 四万十川は、やはり源流から端までが、四季折々の中で皆様方がしっかりと、その地域地域で歴史と文化を守り育て築いているんだなとつくづく感じました。

皆さん方がネットワークして、それをもう一步踏み込んで、町外の皆様方に提供するという事は大きな財産です。文化的景観というのは、人と自然が作り出したもので、人がひいたら、私は終わりになると思っていますから、これを永久に続けていくためにはやはり、それぞれの地域で守って、育てて、築いていただいた皆さん方に、さらに取り組んでいただきたいという思いがいたしております。

知事： Dさんの目指しておられるところまでは、カバーできてないとは思いますが、産業振興計画でも人材育成の部分を22年度から強化をしています。ひとつは、アドバイザーを派遣させていただく、もうひとつは、直接のいろんな人材育成塾みたいなこともやり始めたりしていますので、ご利用いただきたいと思います。

また、県立大学の改革をしていく中で社会科学系の学部をつくったり、それにあわせて社会人教育をもっと充実したりということも、目指そうとしているところです。より、いろんな人材の層に厚く対応できるように、大学改革を含めてやっていきたいと思っています。